

## 学位論文審査結果の要旨

博士課程 甲・㉔	第 57 号	氏 名	川越 純志
審 査 委 員		主 査 氏 名	中村都英
		副 査 氏 名	浅田祐二
		副 査 氏 名	黒田嘉礼
<p>[論文題名]  Association Between Adiponectin Production in Coronary Circulation and Future Cardiovascular Events in Patients With Coronary Artery Disease  International Heart Journal, 55, 239-243, 2014</p> <p>[要 旨]  アディポネクチンは抗動脈硬化作用をもち、冠循環の局所でも産生されている。本研究の目的は冠動脈疾患を有する患者において冠循環でのアディポネクチンの産生が将来の心血管イベントを予測し得るか否かを検討する事である。冠動脈左前下行枝に経皮的冠動脈インターベンション(PCI)を必要とする症例 48 名を対象とし、PCI 施行前に左冠動脈入口部と大心静脈から同時に血液サンプルを採取し、冠循環でのアディポネクチンの産生量を測定した。大心静脈での血中アディポネクチン濃度から左冠動脈入口部での血中アディポネクチン濃度を引いたものを産生量とした。次に冠循環でのアディポネクチンの産生量が正の値になる (+) 群と、負の値になる (-) 群に分け、それぞれアディポネクチン産生 (+) 群 (37 名) とアディポネクチン産生 (-) 群 (11 名) とした。プライマリーエンドポイントは心血管事故の発生とした。平均フォロー期間は 66 ヶ月であった。結果であるが、フォロー中に心血管事故を生じた症例はアディポネクチン産生 (+) 群で 9 症例(9/37)、アディポネクチン産生 (-) 群で 7 症例(7/11)であり、有意に (<math>p=0.02</math>) アディポネクチン産生 (-) 群での発生率が高かった。また、多変量解析ではアディポネクチンの産生が負の値であることが独立した心血管事故の予後予測因子であった。カプランマイヤー分析では心血管事故の回避率はアディポネクチン産生 (+) 群に比べアディポネクチン産生 (-) 群で有意に低かった。以上の結果より、冠疾患を有する症例において、冠循環でのアディポネクチンの産生は心血管事故に関連している可能性が明らかにされた。</p> <p>大学院博士課程の学位論文に値すると判定した。</p>			